

平成28年度中学校・高等学校教員にご回答いただいた
クレジット教育に関する
アンケート結果

平成28年12月



一般社団法人

日本クレジット協会

認定割賦販売協会 認定個人情報保護団体

目次

➤ 1.はじめに

➤ 2.概要

－ 回答者属性

➤ 3.調査結果

- (1) 授業で「クレジット教育」を行う時間
- (2) クレジットに関して重点的に教えていること
- (3) 協会が作成している教材の評価
- (4) クレジット教育のために必要な教材
- (5) その他クレジット教育支援活動に関するご意見等

1.はじめに

一般社団法人日本クレジット協会は、クレジット取引の健全な発展と国民の消費生活の向上に寄与することを目的に活動しており、その一環として『クレジット教育支援活動』を実施しております。

この活動は、中学校や高等学校等の学校に対し、クレジットに関する補助教材の提供や講師派遣等を行い、将来、社会に巣立つ生徒たちに向けてクレジットの仕組みや正しい利用方法等を理解させる教育を支援するものです。

今回実施したアンケートは、教育現場におけるクレジット教育の実態を把握し、当活動を継続的・効果的に行うことを目的に実施したもので、多くの先生方にご回答いただきました。ご回答いただきました先生方に感謝いたしますとともに、調査の結果をご報告申し上げます。

調査結果やご意見は、今後の活動の参考にさせていただきますので、今後も、当協会へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成28年12月
一般社団法人日本クレジット協会
クレジット教育センター

2.概要

■内容

中学校・高等学校の授業において、クレジットについて取り上げている時間数、内容、必要な教材等について調査。

■方法

教材の申込書にアンケートを併記し、申込みと同時にアンケートへの回答が行えるような形式とした。

■対象

全国の高等学校 約5,400校、及び中学校 約10,500校の消費者教育担当の教員。

■アンケート実施時期

平成28年6月1日から平成28年10月31日まで

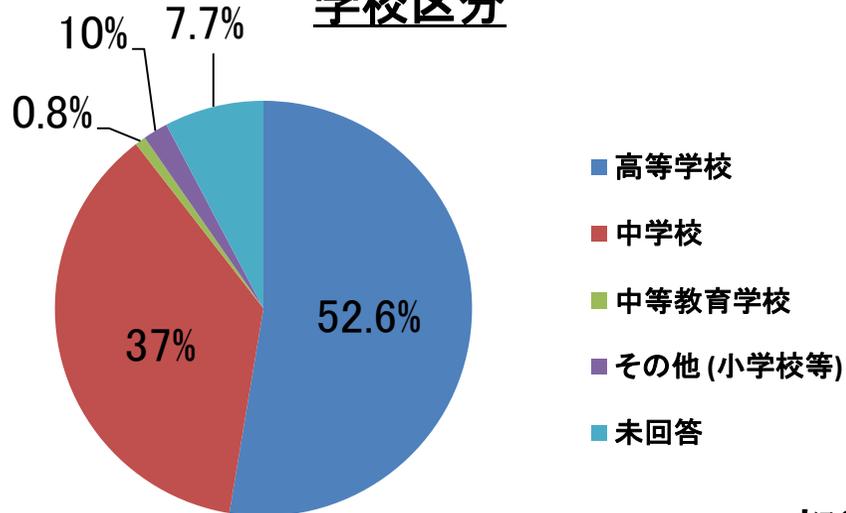
■回答数

363校の教員(昨年比138校増)

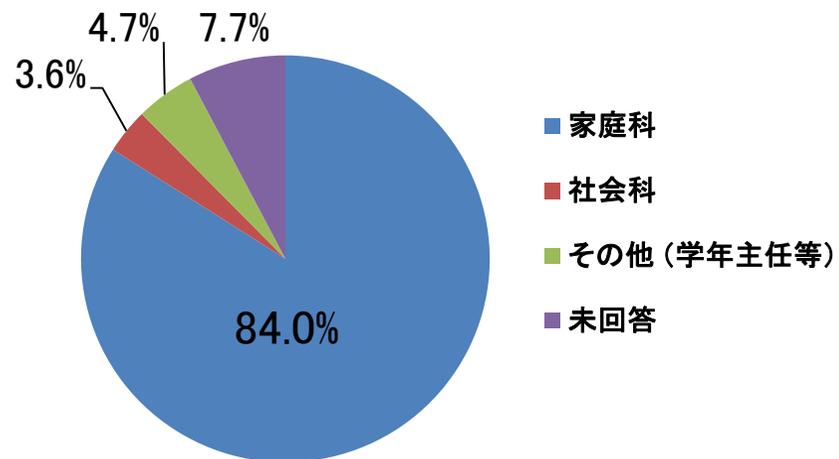
(高等学校191名、中学校134名、中等教育学校3名、その他35名)

回答者属性

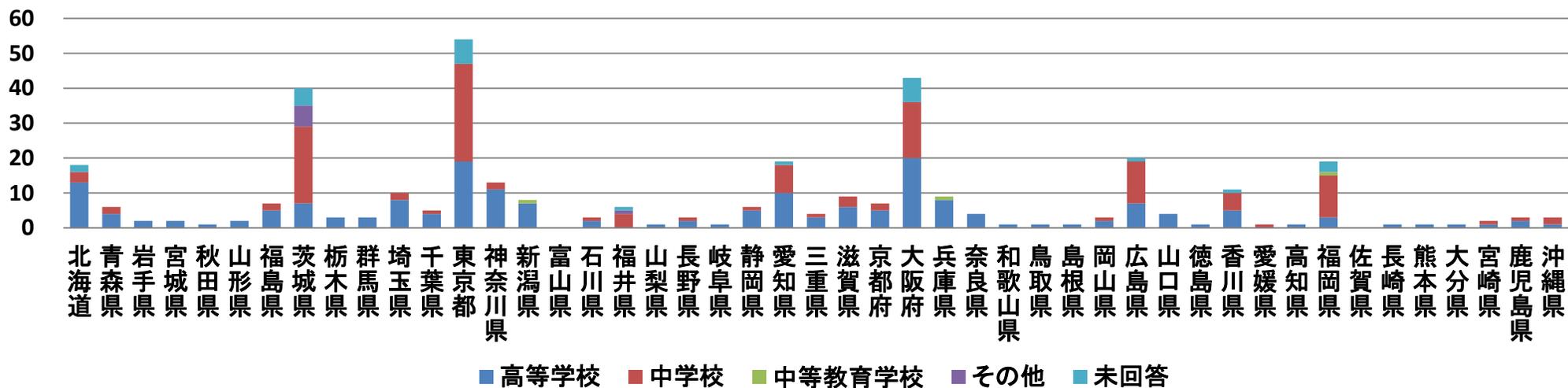
学校区分



担当教科区分



都道府県別



3.調査結果

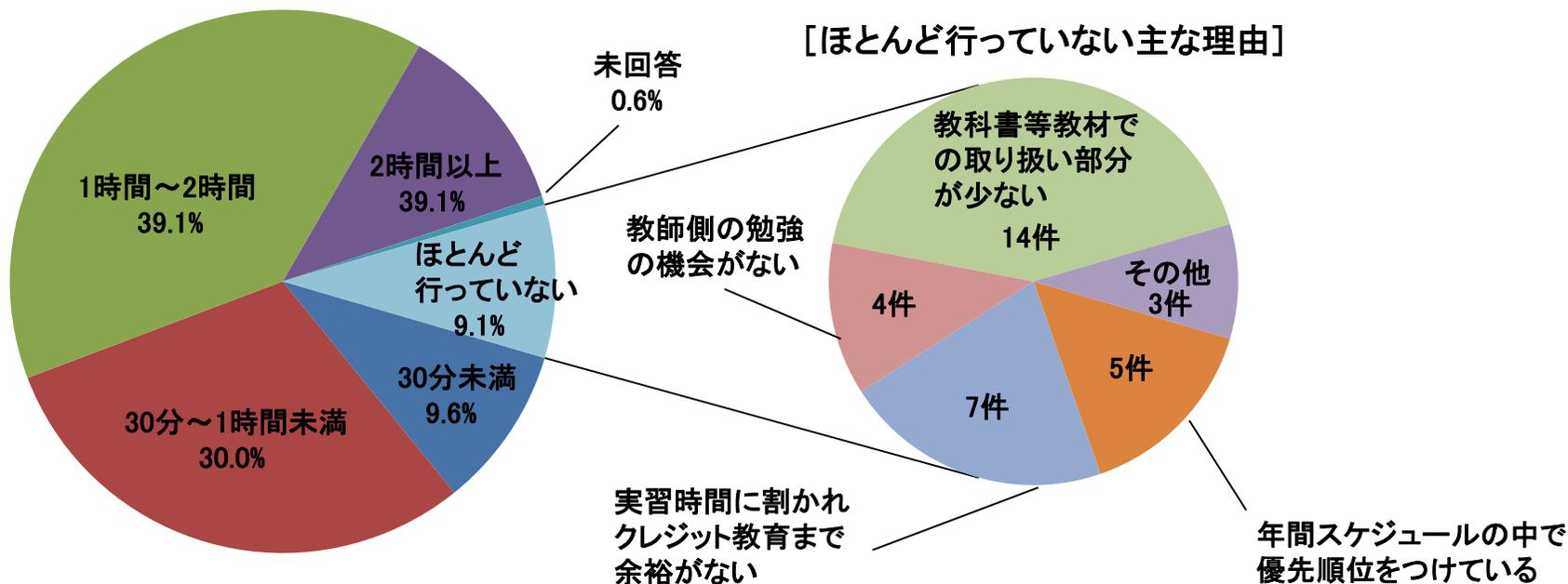
(1) 授業で「クレジット教育」を行う時間

授業において「クレジット」を取り上げている時間数は、「1時間以上2時間未満」であるとの回答が全体の39.3%と最も多く、全体での平均は「1時間21分」である。

昨年度調査での、全体平均は「1時間18分」で、ほぼ横ばいの状況である。

「ほとんど行っていない」という回答の理由としては、「教科書等教材での取り扱い部分が少ない」という回答が最も多く、ついで「実習時間に割かれクレジット教育まで余裕がない」という回答が多い。

授業で「クレジット教育」を行う時間

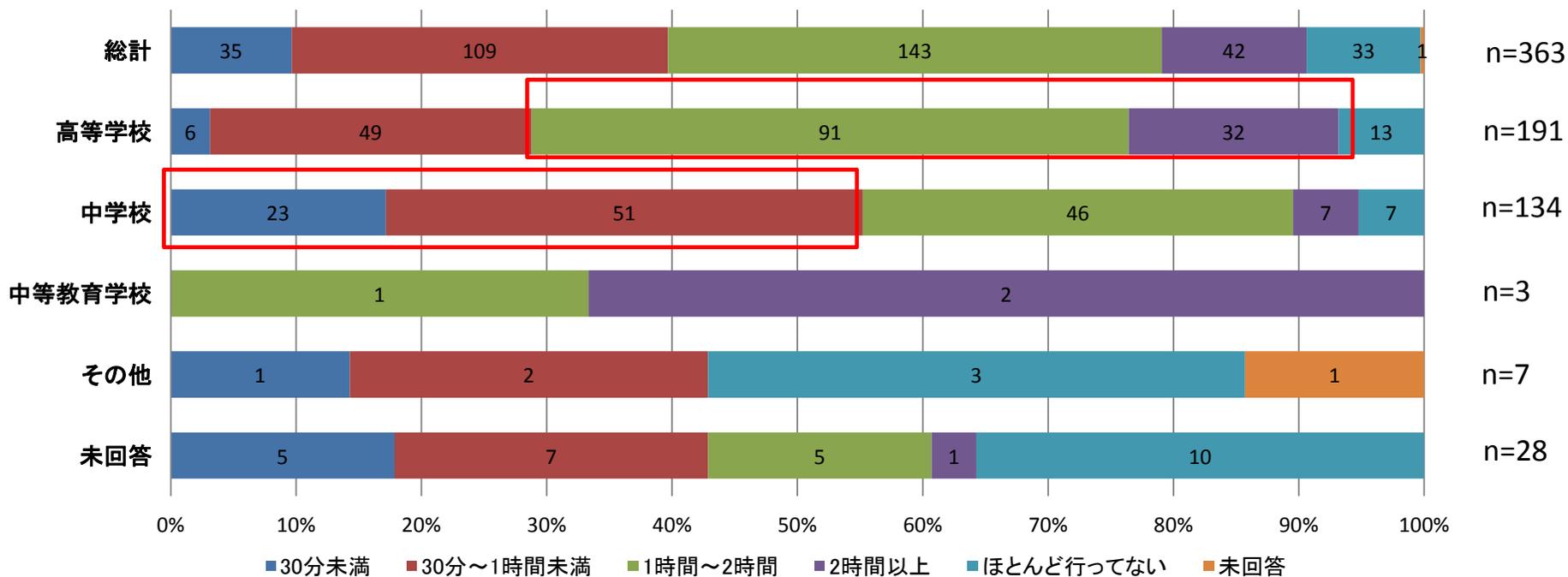


学校区分別に平均時間をみると、高等学校では「1時間34分」、中学校では「1時間15分」であり、高等学校の方が中学校よりもクレジット教育の時間数を多く確保している。

高等学校は昨年度（1時間36分）からほぼ横ばいだが、中学校での時間数は昨年度（1時間4分）から若干増えている。

また、高等学校の約6割は1時間以上のクレジット教育の時間を確保しているのに対し、中学校に関しては約半数以上が1時間未満である。

授業におけるクレジット教育の時間（学校区分別）



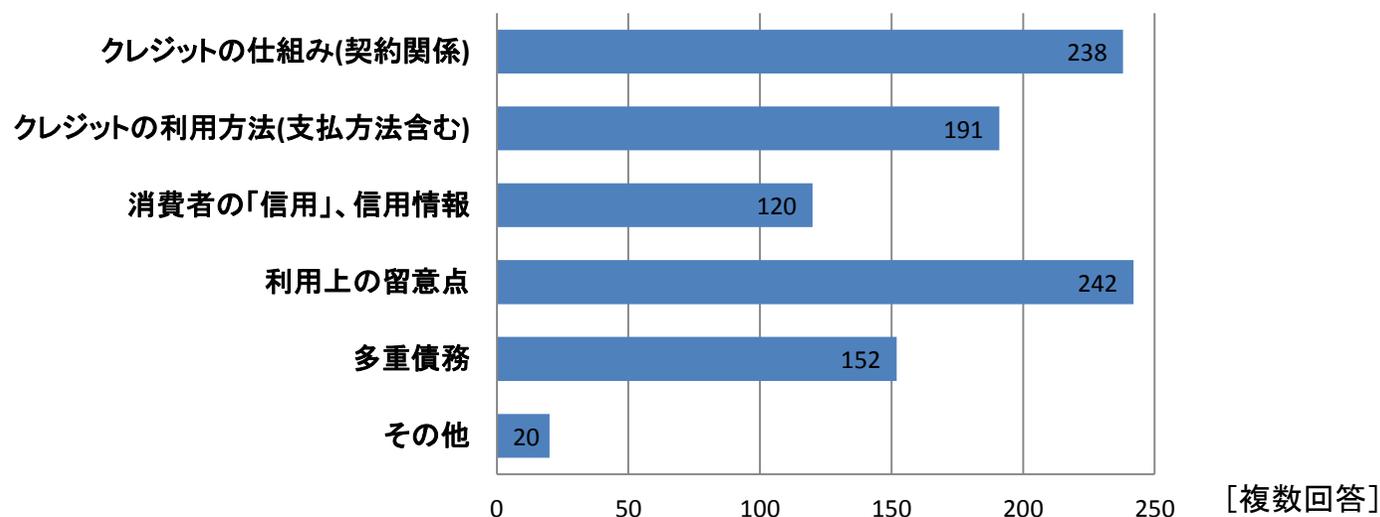
(2) クレジットに関して重点的に教えていること

5つの選択項目のうち、重点的に教えている項目についてお聞きしたところ、「利用上の留意点」の回答が最多(242件)であった。ついで「クレジットの仕組み(契約関係)」(238件)、「利用方法・支払方法」(191件)と続く。

なお、昨年度は、「クレジットの仕組み(契約関係)」「利用上の留意点」「利用方法・支払方法」の順であったので、上位2つの順位が逆転する結果となった。

自由回答として、「悪質商法」や「トラブルの事例」「クレジットカードの種類」「国際ブランドについての説明」等のより具体的な内容を教えているとの回答もあった。

重点的に教えていること

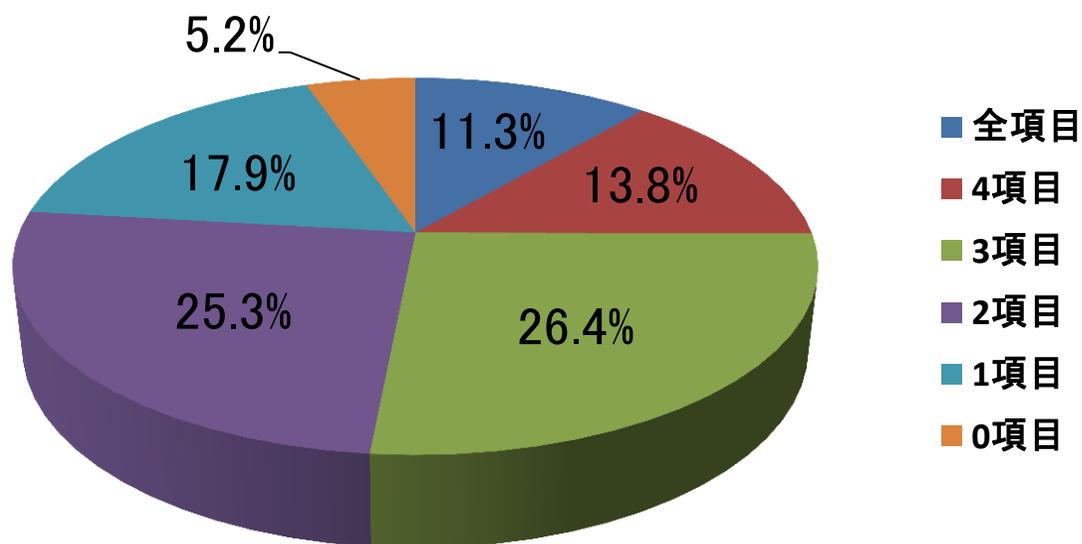


該当する項目の数について、選択項目のうち、5つ全てを教えているという回答は、11.3%であった。
また、3項目以上を取り上げているという回答が全体の半数以上であり、全体を平均すると、2.6項目になる。

なお、昨年度は全項目教えていると回答した先生が14.5%、3項目以上と回答した先生が全体の55.4%、平均で2.8項目であった。

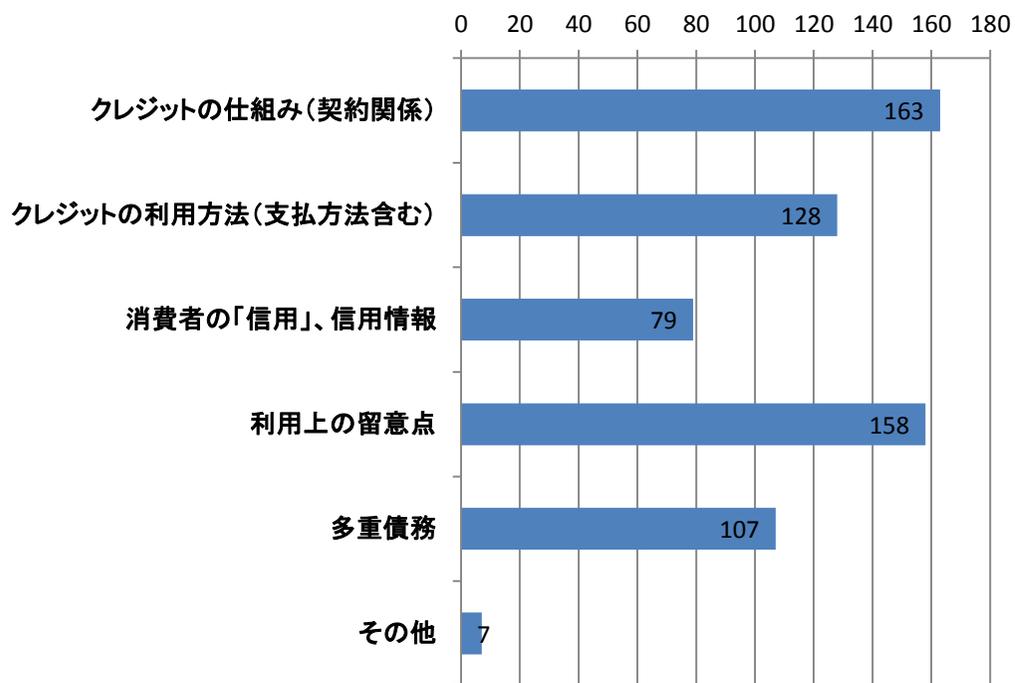
(※次ページ:平成27年度調査結果 参照)

重点的に教えていること(該当項目数)



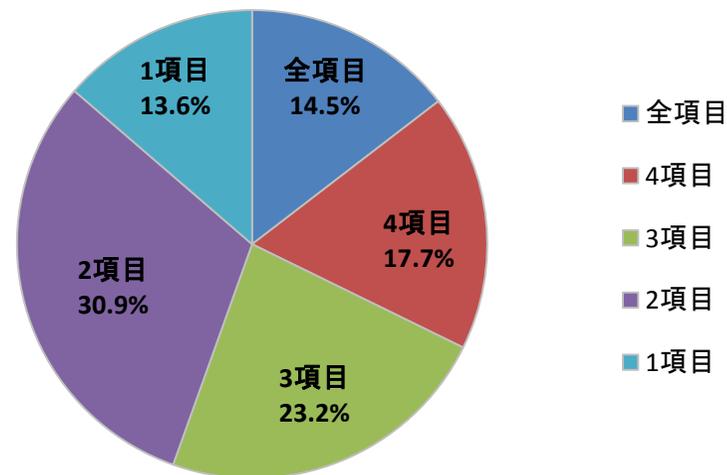
平成27年度調査結果

クレジットに関して重点的に教えていること



[複数回答]

重点的に教えていること(項目数)



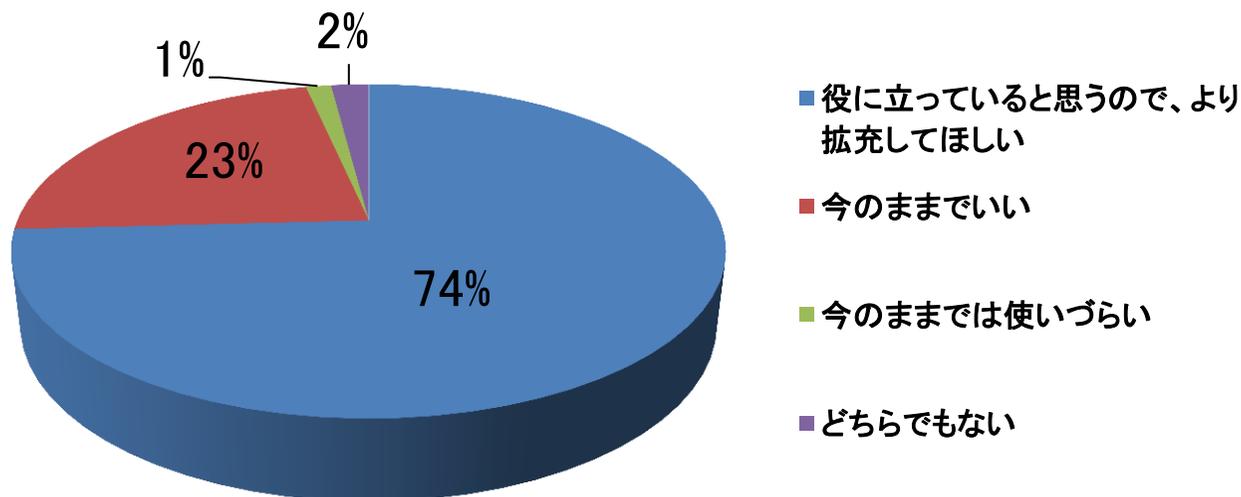
(3) 協会が作成している教材の評価

協会作成の教材を利用したことがある先生(147人)を対象として、教材の評価についてお聞きしたところ、「役に立っていると思うので、拡充してほしい」(74.0%)、「今のままでよい」(23.0%)という肯定的な回答は全体の97%であった。

一方、「今のままでは使いづらい」という回答は1.0%、「どちらでもない」という回答は2.0%と少数。

なお、教材を使ったことがない先生方からは、同時に教材の申込みをいただいております。初めて協会作成の教材を利用する先生方にも、教材を案内することで改めて興味をもっていただくことができました。

協会作成の教材の使いやすさについて



(4) クレジット教育のために必要な教材

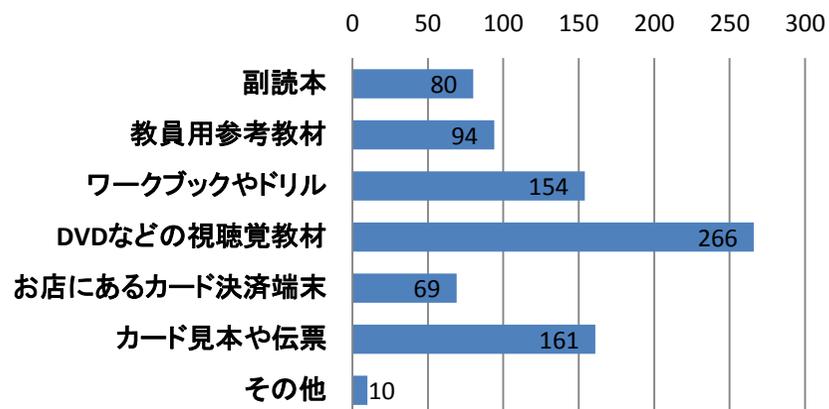
クレジットを授業等で取り上げる時に必要と考えている教材については、「DVDなどの視聴覚教材」(266件)や「カード見本や伝票」(161件)、「ワークブックやドリル」(154件)の3項目の希望が多い。

なお、「DVDなどの視聴覚教材」は昨年度調査でも希望が最も多く、強いニーズがあることがうかがえる。

[その他回答]

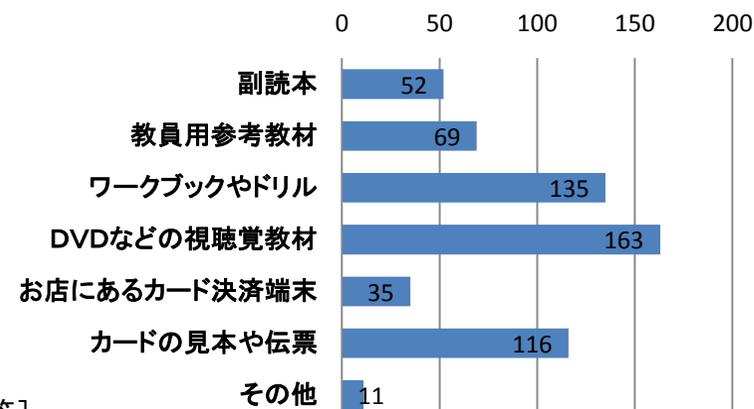
- ・現在のワークブックの内容をより簡単にしたもの(短い時間で扱えるように)
- ・有名人が出演する映像教材
- ・アクティブラーニングできる教材(ジグソー法に役立つ教材、ロールプレイができる教材など)
(改訂を予定されている次期学習指導要領に「アクティブラーニング」が盛り込まれたことから)

教材の希望(平成28年度調査)



[複数回答]

参考 教材の希望(平成27年度調査)



[複数回答]

(5) その他クレジット教育支援活動に関するご意見等

当協会が行っているクレジット教育支援活動について、以下のようなご意見をいただいた。

【勉強会について】

- ・クレジットの仕組みがよくわかった。
- ・自分のためにも生徒に教えるためにもいい研修になった。
- ・自由に質問をすることもでき、個人としても大変参考になった。
- ・カード決済端末機器を借りて、ぜひ授業で利用したい。

【教材について】

- ・『くれじっと入門』を利用しており、短時間で効率よく授業を進めるのに役立っている。
- ・『くれじっと入門』とマンガ『まーくんとみなちゃんのクレジット青春メモリー』が生徒に好評であった。
- ・重要な内容であるため、毎年教材を活用しているが、非常に役に立っている。
- ・テキストの内容は良いが、授業で扱うには時間が足りなく、ただ読ませるのには難しすぎる。
- ・テキストの内容が多く、授業内ではすべてをやりきれないことが多い。
- ・ごく限られた時間の中で授業するので、視覚に訴えるものが効果的である。
- ・小学校高学年や中学生でも分かりやすいものがほしい。
- ・通販やスマホのアプリなどに関連した教材があると魅力的である。
- ・海外でクレジットカードを利用する場合のメリットと注意点がわかるものがほしい。



JAPAN CONSUMER CREDIT ASSOCIATION
